

優良農家の紹介

主幹型モモに挑戦（鷹尾農園）

長年、酪農を続けてきた加東郡東条町の鷹尾氏は、2001年より地域で前例のない主幹型モモ栽培に取り組んでいる。

1 鷹尾氏の経営転換の経緯

鷹尾氏は長年、酪農経営を安定して続けてきた。しかし、次の点で行き詰まりを感じ始めていた。

- 糞尿処理に関して周辺が気になりだした。
 - 牛舎及び乾燥ハウス等施設が老朽化してきた。
 - 両親の高齢化や孫の世話などで人手が少なくなり、自由な時間がなくなってきた（特に妻）。
 - 子供の学費等家計出費が減り、収益よりもゆとりの時間が大事であると考えようになった。
- このことから、経営を転換することを決意した。

当初は山田錦の面積拡大を考えたが、5 ha以上の農地集積は困難であった。そこで、加西普及センターの勧めで、姫路や佐用の事例を研修し、主幹型のモモに挑戦することに決めた。その理由は、次のとおりである。

- 当初の投資が比較的少ない。
- 結実までの期間が短く成園化が早い。

2 植え付けと生育状況

2001年3月に16 a（日川白鳳34本、紅清水34本、清水白桃34本、その他品種34本、計136本）、2002年12月に7 a（白鳳25本）植栽した。植え付け前は長年、牛糞たい肥を入れ続けていた田の土を圃全体に約10cm程度入れて整地した。その後、棚を設置し、植え付けを行った。

2年目に1樹当たり30個程度果実を成らせ、3年

目になる今年は、1樹当たり50～60個程度成らせてみた。来年からは、1樹当たり100個程度成らせてみたいと考えている。

販売については、『道の駅とうじょう』とゴルフ場での直売。今年は前者が主体であったが、来年からは後者にも力を入れて販売していく予定である。

3 経営転換で変わったこと

農閑期ができて、余裕の時間ができてきた。奥さんは、町内の女性7名で「きらり加工グループ」を結成し、新しい取り組みを始めた。

思い切った経営転換の中、熱心な取り組みで着実に成果をあげ、優良事例として地域に刺激を与えている。

4 今後の計画

モモが間もなく成園になるので、高級な果実を多くとれるようにしていきたいと考えている。販売面ではこれまでと同様に、お客さんの喜ぶ顔が見える販売を続けていきたいと考えている。

東元 正司（加西普及センター）



図 植え付け2年目のモモ園の状況

ひょうごの農林水産技術 No.132

平成16年3月1日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47-2400

1部250円（申込先・県立農林水産技術総合センター）